

令和7年度「学校図書館活用推進事業」実践報告

新潟市立新津第二小学校

1 昨年度までの課題

【児童】

- ・体系的な図書館教育が不十分なため、返却した本の置き場等を理解していない。
- ・図書館の本を読む児童が限られている。特に高学年になるにつれ、読書の量や質に差が出ている。
- ・タブレットで調べ学習を済ませることが多く、図書館の本を活用する機会が減った。それに伴い、本を活用した学習の仕方が身につけていない児童が多い。
- ・外部と連携した読書活動がない。

【職員】

- ・図書館の年間活用計画がないことで、図書館と連携した授業が担任の采配となっている。そのため、司書と連携した授業づくりの機会がない。
- ・総合などで使用する資料を学年内で保管していた。また、資料の種類も豊富ではないため、図書館を使って調べ学習をしていなかった。
- ・学校全体として、図書館の「学習センター」「情報センター」としての役割の理解が十分ではない。
- ・図書館内の掲示が充実しているとは言えない。

2 実践で目指すことも

- (1) 読書の楽しさを味わわせ、進んで読書しようとする子どもを育てる。
- (2) 図書館資料を学習や生活にいかそうとする態度を育てる。

3 今年度の実践

(1) 読書センターとして

① 本の配置変更

- ・図書館の配架を変更し、教科書に掲載されている本を児童が目にしやすい場所へ移動する。
- ・絵本から9類の本へ移行する際に、低学年でも読みやすい9類の本を集めた、「ひまわりの芽」の棚をつくる。

② 分類掲示の新調

- ・分類表示をシンプルなものから、UD フォントを使って、明るく見やすいものに新調した。
- ・棚に挟んで使用していた分類表示は平面的で横から見るタイプだったが、正面から見て分かるよう、立体的なものへ変えた。



③ 図書館のオリエンテーション

- ・年度初めに、全学級を対象にオリエンテーションを実施。本の扱い方、貸出し方法に加えて、本の分類についても指導した。



④ 館内の環境づくり

- ・図書館に入りたくなるように環境整備を行う。季節に合わせた掲示やモチーフを置いた。
- ・12月にはクリスマスに合わせて、ミニゲームを行った。館内に隠されたワードを探した。



⑤ 地域ボランティアによる読み聞かせ



- ・外部と連携した読書活動がなかったため、読み聞かせボランティアによる読み聞かせイベントを月に一回行う。昼休みに行うことによって、学年関係なく、読み聞かせを聞きたいと思う児童たちが参加した。

⑥ 多読の推進

- ・100冊本を読むと、児童の名が書かれた宇宙船を図書館前廊下に掲示する。また、200冊本を読むと、その船に宇宙人を乗せる。たくさん本を読んだ子供たちが分かるように掲示する。
- ・「本とともにだち」といった、教科書に出てくる本のカードを学年の初めに配付する。全て読むと、本に関するクイズが受けられる。そのクイズに正解すると、しおりがプレゼントされる。



⑦ 図書委員会の活動

- ・「ひまわり集会」という児童集会で本に関するクイズを出題。今年は七夕の日に集会があったことから、七夕に関するクイズや、本の題名や内容に関するクイズを出した。それに加えて、今年度は年度初めの図書のオリエンテーションで本の分類について学習したことから、本の分類についてのクイズを出した。
- ・図書館のミニイベントを行う。「白い服を着ている人」等、特定の条件にあった人が図書館で本を借りると「プラス1冊券」を渡す。
- ・図書館祭りを企画する。今年度はクイズのスタンプラリーを行った。学年ごとに難易度を合わせ、いろいろな種類の本を手に入る機会にした。
- ・期間を決めて学級ごとの貸出数を競うイベントを企画する。

⑧ 全校読書カードづくり

- ・図書委員会の読書旬間に合わせて、朝読書の時間を設ける。全校で「おすすめの本」を紹介するカードを作成し、廊下に掲示することで友達にも読んでもらう。

⑨ 読書バリアフリー推進

- ・学校図書館支援センターの「読書バリアフリー体験セット」を借りた。児童は、様々な図書や用具に触れることで、読書にもバリアフリーがあることを学んだ。
- ・手作りのリーディングトラッカーを複数作成し設置することで、どの児童も気軽に使用できるようにした。

(2) 学習センターとして

① 学校図書館年間活用計画の作成

- ・昨年度まで学校図書館年間活用計画が用いられていなかったため、今年度新しく作成した。学年ごとに「機能における分類」「図書館に関わる主な学習内容・活動」「参考資料等」の欄を設けた。
- ・作成した学校図書館年間計画を基に、学年の先生方に声を掛け、日々の授業の中に図書館資料を取り入れることを呼びかけた。

② 年間活用計画に沿った授業実践

〈 1年生 国語「のりもののカードをつくろう」 〉



- ・市内の図書館から乗り物の本を多数借り、その中から自分の興味のある乗り物を選択し、乗り物の特徴を押さえ、自分たちの乗り物図鑑を作成した。
- ・完成した乗り物図鑑を図書館に置いてもらい、全校生徒に見てもらった。

〈 2年生 国語「どうぶつカードを作ろう」 〉

- ・自分の調べたい動物が、本の題名に書かれていない場合、どのように探せば、自分の知りたい情報が得られるかを司書から学んだ。
- ・本から動物の秘密を見つけクイズを作成した。



〈 3年生 国語「図書館へ行こう」～図書館探偵～ 〉



- ・調べたい本がどこにあるか日本十進分類法を基に探す活動をした。

〈 4年 国語「くらしの中の和と洋」 〉

- ・ALT の先生に日本の良さを伝えるために、図書館を利用し、日本の文化についての本を借りた。
- ・本を使って調べ、和のよさをカードにまとめた。



〈 5年 総合「新津川環境問題」 〉



水をキレイにするためにできること



このようにフライパンの油を取るためにいらぬ紙や布を入れておくなどすると環境が良くなるかも！



- ・新津川環境問題や環境改善について図書館の本を利用して調べた。
- ・環境問題についてのスライド作成時には図書館内で作業活動するグループもいた。

〈 6年 国語「心が動いたことを十七音で表そう」 〉

- ・図書館から俳句づくりの本や歳時記を公共図書館から借りて、俳句作りを行った。



③ 授業実践以外の取組

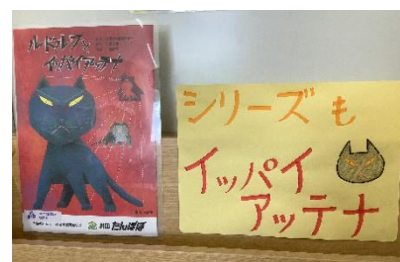
〈 PTA の夏講座 〉



・夏休み中の PTA 講座で俳句をつくる講習があった。その際に校内図書館から資料提供を行った。公共図書館からも借りた。

〈 国語 演劇鑑賞会「ルドルフとイッパイアッテナ」 〉

・「ルドルフとイッパイアッテナ」の演劇を全校で鑑賞した。劇の終わりに全校に「ルドルフとイッパイアッテナ」の本を紹介した後、図書館に「ルドルフとイッパイアッテナ」のシリーズのコーナーを設置した。劇で行われた第一巻だけでなく、他の巻にも興味をもって借りる姿が見られた。



④ 年間活用計画に基づいたレファレンスサービス及び教室貸出し

- ・年間活用計画に基づき、学習に必要な資料や分類の場所を紹介する。
- ・学習に必要な本を学年・学級に貸出し、教室内で利用できるようにする。

⑤ 調べ学習に適した館内掲示



- ・日本十進分類法の分類が一目で分かるように掲示する。
- ・百科事典、図鑑など調べ学習の仕方が分かる掲示を用意する。

(3) 情報センターとして

① 学習資料の収集と整理

- ・学年から要望を聞き、本の追加収集に生かす。

② 新聞コーナーの設置



・図書室内に置いていた新聞トラックを全校が通る一階の職員室前廊下に設置。新聞を読んでいる児童に職員が声を掛けやすい環境にする。「毎日小学生新聞」と「新潟日報」の新聞が目につくような環境にする。要望があれば、バックナンバーへの対応も行う。

③ パンフレット・リーフレットのファイリング

- ・校外学習や修学旅行へ行く先生方に、「持ち帰れるものがあつたらなんでもください。」とお願いし、少しずつ資料を増やす。
- ・次年度以降使えるよう、ファイリングし、図書館内に整理して置く。



④ 公共・他図書館との連携

- ・新潟市図書館支援センターと、団体貸出し、学校訪問、レファレンス(調査・相談)など、必要に応じて連携する。

(4) 中学校区及び外部との連携

① 中学校のテスト期間に合わせた「うちどく」の推進

- ・新津第五中学校学区の小学校が、中学生のテスト期間に合わせて「うちどく」を行う。「うちどくカード」を配り、児童は読んだ本の題名やどのような方法で読書を行ったかを記入する。
- ・ゲームやテレビなど電子メディアから離れ、家庭でも本を読む機会にする。

② おすすめの本の紹介

【小学校から中学校へ】

- ・中学校図書館に、小学校教員が書いた紹介文と本と一緒に展示してもらう。

【中学校から小学校へ】

- ・中学1年生が小学生に向けて書いてくれた本のポップを小学校の図書館廊下に掲示した。来年や再来年に中学校へ進学する児童たちの興味を引いた。

③ 放課後児童クラブとの連携

- ・昨年度は夏休み中に4日間解放したが、21人の利用数だった。
- ・今年度は夏休みの開館について事前に、放課後児童クラブと連絡を取り、連携した。そのため、児童クラブの1日のプログラムに学校図書館の利用を組み入れてもらい、3日間の開放で100人利用した。

4 実践を振り返って

(1)成果

【児童】

- ・自分で分類番号を確認し、正しい場所へ図書を返却できるようになってきた。
- ・展示や読み聞かせをきっかけに、今まで興味をもたなかった本を手取る姿が見られた。
- ・低中学年中心に学級担任と司書の TT で参考資料の使い方を指導し、本を活用して学習する方法が身に付いてきた。

【職員】

- ・学習資料のための本の収集希望が、司書に寄せられるようになった。
- ・学年会の際などに、学校図書館年間活用計画を見ながら、学習の一環として図書館を利用しようとする職員の姿が見られるようになった。
- ・学校行事や総合の授業で使える資料を、図書館へ提供してくれる職員の姿が見られた。
- ・本を活用した授業から、来年度授業で使えるような図書資料を増やすことができた。
- ・学校図書館年間活用計画や図書館に学習資料を配置するなど今年度から始めたものが多いが、今年度試験的に実践したことを、来年度の図書館活用や授業の資料提供につなげていく。

(2)課題

- ・年度初めのオリエンテーションだけでは、図書資料の活用力を付ける時間として十分ではない。例えば、各学年の総合の学習の時間と関連させて図書の時間を計画的に位置付けるなど、小学校6年間を掛けて伸ばしていくという長期的な視点が必要である。
- ・夏季の図書館開放について、放課後児童クラブを利用している児童の利用は多かったが、その他の利用が少なかった。要因として、図書館だよりがメールでの配信となったため、図書館の夏季開放の情報が子どもたちに届かなかったことが考えられる。図書館での掲示や学習用タブレット端末に送信して夏休み中でも図書館を利用できる日があることを子どもたちが分かるようにしていきたい。
- ・読書量はある程度確保できているが、質が上がらない。高学年でも絵本から9類などの読み物の本へ移行しておらず、段階を踏む必要がある。本自体への興味関心を少しでも高めるため、図書館内に入らずとも本の情報が入るよう、廊下等の掲示も充実させていきたい。